

フォトライフ
四季

カメラのキタムラ カメラとビデオのビッグチェーン
〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1
☎045-476-0777
平成9年6月1日発行
季刊第21号
キタムラホームページ
<http://www.kitamura.co.jp/>



vol.21
SUMMER

特集 写真家・津田洋甫氏

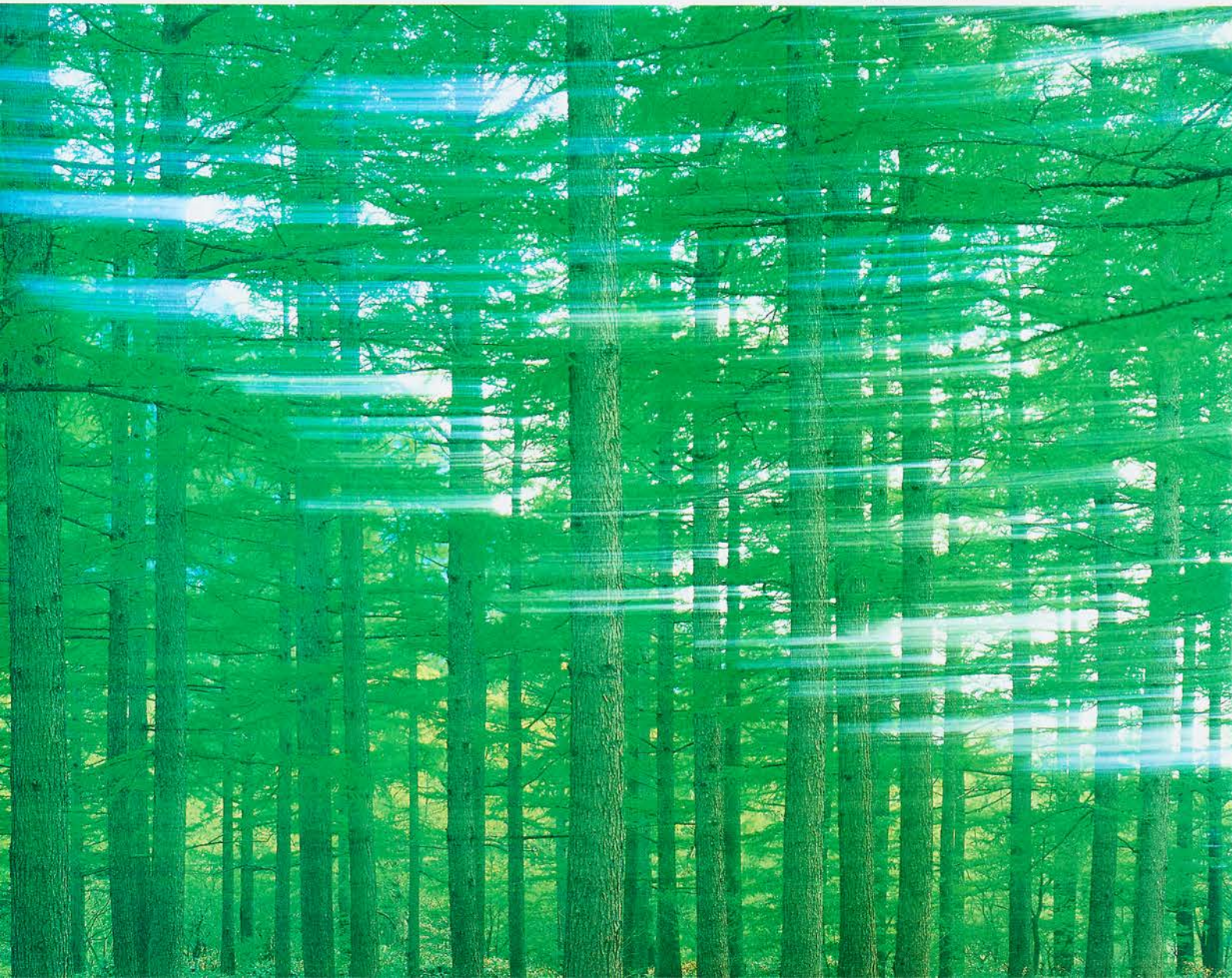
**永遠に繰り返す自然の営みに、
自分の人生観を写し出す。**

「滝」を撮る 永瀬嘉平氏インタビュー

打ちつける水を真近に感じ、音や冷たさまでも表現したい。

保存版 マクロ写真用品特集

「唐松幻想」走る車窓から林がとても美しかった。車を止めて眺めてみると単なる木立。動く車窓が残像を作っていたことを知り、この方法を考案した。カメラを三脚に据え、10秒の露出のうち8秒を固定、2秒を横に振って写すのだ。ポイントはバックの斜めの山。成功までに3年の歳月を費やした。
■カメラ：リソフテヒニカ4×5 レンズ：Sジマー 210mmF5.6 絞り：f32 シャッタースピード：10秒
フィルム：50D 三脚使用 撮影地：長野県・上高地
(撮影) 津田洋甫氏



フォトライフ
四季
CONTENTS
Vol. 21
SUMMER



「静」丹波美山の里の撮影に利用している宿で、夕刻が迫り、あたりが音を忘れたような静寂の世界になった。タングステンフィルムでの効果を狙った。
■カメラ：リソフテヒニカ4X5 レンズ：Sジンマー210mmF5.6 絞：f8
シャッター速度：1/15 フィルム：64TP 三脚使用 撮影地：京都府・美山町
(撮影)津田洋甫氏

特集 写真家・津田洋甫氏

永遠に繰り返す自然の営みに、
自分の人生観を写し出す。..... 2

津田洋甫先生が撮影した「日本の四季」..... 8

THE フォトワールド⑨ 「滝」を撮る 永瀬嘉平氏インタビュー
打ちつける水を真近に感じ、音や冷たさまでも表現したい。..... 12

保存版 マクロ写真用品特集 23



「三条の滝」尾瀬の一大名所。秋の紅葉時がすばらしい。展望台から滝壺まで入れて撮る。
■カメラ：ニコンF4 レンズ：35mm、105mmズーム絞：f18
シャッター速度：1/60 フィルム：プロビア撮
影地：福島県松枝村(撮影)永瀬嘉平氏

連載記事

写真おもしろヒストリー⑬
戦後の復興期、カメラには遊び心があった
日本カメラ博物館 PART2 11

メーカー探訪⑧ 富士フィルム編 14

フォトライフ ステップアップレッスン⑨
速いシャッタースピードで、一瞬を逃さずにとらえよう。..... 16

第2回ペット・動物ふれあい写真コンテスト入選作品発表 20

読者のページ フォトライフ四季 ふれあい広場 28

プレゼントが当たる! クロスワードパズル 28

編集後記 28

新しい写真の時代へ



MINOLTA



APS一眼レフカメラ
VECTIS S-1

アドバンスド・フォト・システム (APS) の先進機能をフル搭載したベクトリスS-1は、これからの時代の超小型一眼レフカメラ。簡単な操作でひとクラス上の高画質な映像が得られます。また、充実のレンズ、アクセサリ群に加え、テレビやパソコンで写真が楽しめるフォトプレーヤーもラインナップ。新しい写真の楽しみ方を提案していきます。ミノルタ ベクトリスS-1誕生。新しい写真の時代がはじまります。

- 旅行などの際の携帯にも便利。高性能を凝縮した超小型・軽量設計。
- フィルムは、ボンと入れるだけのワンタッチローディング。
- 小雨や雪の中でも安心して撮影することができる防滴設計。
- 途中で巻き戻したフィルムが再度使えるフィルム途中交換機能。
- テレビの大画面やパソコンで写真が鑑賞できるフォトプレーヤー。
- 5本のレンズやカメラガード、水中ハウジングなど、アクセサリ群も充実。

ベクトリス希望小売価格(税別) ●ベクトリスS-1 Vズーム22-80mm F4.5-5.6付..... ¥100,000 ●ベクトリスS-1ボディ(チタンカラー・ブラック)..... ¥62,000 ●Vズーム22-80mm F4.5-5.6 (28-100mm※4)..... ¥38,000 ●Vズーム28-56mm F4.5-5.6 (35-70mm※4)..... ¥20,000 ●Vアポズーム80-240mm F4.5-5.6 (100-300mm※4)..... ¥53,000 ●Vズーム56-170mm F4.5-5.6 (70-210mm※4)..... ¥29,500 ●Vマクロ50mm F3.5 (63mm※4)..... ¥35,000 ●ベクトリスフラッシュSF-1..... ¥18,000 ●ベクトリスフォトプレーヤーVP-1..... ¥59,800 (リモコン付)

■カタログ送呈 住所・氏名・年齢・機種名をご記入のうえ右記まで 〒108 東京都港区高輪2-19-13(NS高輪ビル) ミノルタカメラ販売株式会社 写友会係 ●ミノルタベクトリスS-1のお問い合わせフリーダイヤル☎0120-493-881 ●お客様商品相談窓口☎(03)5423-7555 ☎(06)271-2641 ※1 JIS保護等級2 (防滴Ⅱ型)相当。 ※2ビデオ入力端子付のパソコン、またはビデオキャプチャーボードを装備したパソコン。 ※3ベクトリスS-1専用アクセサリ。 ※4 35mmフィルムに換算した概算焦点距離。 ※5 1996年10月1日現在。標準ズーム(22-80mm)付、レンズ交換式AF一眼レフカメラにおいて。 ●Vレフレックス400mm F8 (500mm※4)は今後発売の予定。

(ミノルタから新発売)



VECTIS S-1



世界最小最軽量。*5 ミノルタ ベクトリス S-1 誕生。

特集 写真家・津田洋甫氏

永遠に繰り返す自然の営みに、
自分の人生観を写し出す。

津田洋甫先生は、戦後の昭和20年代から約50年にわたって写真の世界に携わり、「樹」や「水」をはじめとした自然風景をテーマに長年撮影を続けています。1980年には、ニューヨークのメトロポリタン美術館に日本人として初めて作品が収蔵されるといふ快挙を果たし、また一昨年には紺綬褒章を受章するなど、先生の作品と撮影活動は、国内外で高い評価を受けています。現在も、あくなき探求心と意欲で写真の表現を追求し続ける津田先生にインタビューを行ない、「自身の考える「風景写真作法」や、ライフワークとされているモチーフ「樹」「水」などへの思いなど、撮影活動に関するお話を伺いました。

※なお、表紙及び特集ページに掲載した写真は、すべて津田氏の作品です。



つだ ようほ
1923年奈良県生まれ。日本写真家協会会員、日本写真芸術学会会員、浪華写真倶楽部会員。1980年に個展「POEMS OF TREES」をアメリカ・ニューヨークで開催、5作品がメトロポリタン美術館に日本人として初めて収蔵される。1995年に紺綬褒章受章。写真集は「水色の風」（ぎょうせい）、「シンフォニー大地の詩」「出会いの瞬間」「原生花園」（光村推古書院）、「一期一会」（求龍堂）、など多数。またCD-ROMも多数出版。

「緑陰幻想」林下の日陰で青白く咲くシャガの花が、不思議な魅力で私に迫ってきた。ストリートに写したのでは、それが表現できない。そこでタングステンフィルムとカメラの操作で自分の世界を創ってみた。
■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：Sジンマー210mmF5.6 絞り：f22 シャッタースピード：約3秒 フィルム：64TP 三脚使用 撮影地：奈良県・室生村



「アルプスの夜明け」山岳写真家でもない私だが、写真展の企画のために、白馬の山頂へと50年ぶりに立った。苦しい登山ではあったが、下界では味わえない感動だった。
■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：テレクスナー360mmF5.5 絞り：f8 シャッタースピード：1/60 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：長野県・白馬山山頂



「秋色系清水」秋の斜光は谷底まで届き難く暗いが、前方にキラリと光る線を発見して近づくと、無数の系清水。そこに色鮮やかな紅葉がかかり、秋のメロディを奏でているようだった。
■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：テレクスナー360mmF5.5 絞り：f8 シャッタースピード：1/15 フィルム：EPR 三脚使用 撮影地：三重県・赤目深谷



「雪原の日の出」宿の勘定を夜の間に済ませ、夜明け前に飛び出した。雲下20度近くの気温が、釧路川に霧を発生させて霧水を作り、夜明けの舞合は整った。
■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：テレクスナー360mmF5.5 絞り：f8 シャッタースピード：1/125 フィルム：50D 三脚使用 撮影地：北海道・搾茶村

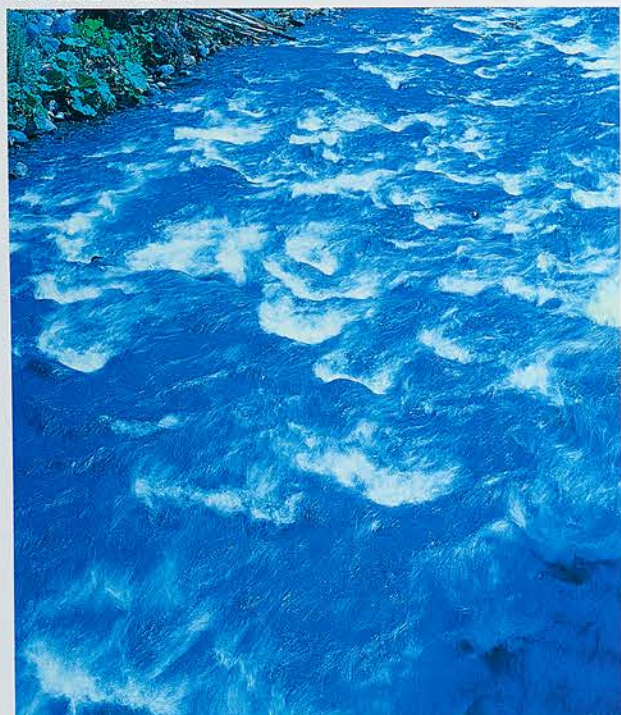


「緑の田園」丹波京北町への途中、この美しい田園に出会った。背景の杉木立との対比がとても美しい。そのままでは平凡すぎるので、少し技法を加えた。
■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：テレクスナー360mmF5.5 絞り：f32 シャッタースピード：1秒 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：京都府・京北町



「生きる」大台ヶ原を源流とする東の川を撮影中、この樹を発見した。信じられないような環境の中で、たくましく生きる姿に、飽食気味の私は反省を促された。
■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：Sジンマー210mmF5.6 絞り：f11 シャッタースピード：1/30 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：長野県・下北山村

「瀬」北海道でありながら連日30度を越える猛暑に耐えかねて、石狩川源流に近い大雪山麓に足を伸ばした時、この川との出会いとなった。
■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：Sジンマー135mmF5.6 絞り：f16 シャッタースピード：1/30 フィルム：64TP 三脚使用 撮影地：北海道・大雪山麓



自然風景が、自分に語りかけてくる一瞬を切り取る。

原生林の樹々との出会いに、自分の写真家としての原点がある。

津田先生は、写真家として長年活動を続けておられますが、この世界に入られたきっかけは何だったのでしょうか？

大学生の時に戦争を体験し、終戦後、何か食べていく道を見つけたねばと思つた私は、もともと趣味でやっていた写真の技術を活かして商業写真のスタジオを開いたんです。その仕事自体は自分の撮りたい作品を撮る作家活動ではなく、生活のために写真を撮る作家活動ですから、自分自身の創作意欲が満たさ

れない部分があるわけです。

それで、友人である高田誠三氏らとともに、日本でも最も古いプロ・アマを通じた写真クラブである「浪華写真倶楽部」に入りました。アマチュアとしての創作活動と、収入を得るための商業写真と、同じ写真という分野の中

で、2足のワラジを履いていたような状態でした。その仕事の中では、実用書などに載せる写真のモチーフとして、料理や酒から手芸まで、様々な手をかけました。また、創作活動の方では、当初造形写真をやったり、そのうち人物写真に移行したりもしました。現在は自然風景をモチーフとしていますが、これら自然以外のものを撮っていた時に用いた技法というのは自然の撮影にも応用できるし、こうした様々な経験が、今、私の写真家としての作品創りに活かされているのだと思います。

現在のよに「樹」「水」といった自然風景を撮られるようになった理由をお聞きしたいのですが？

ちょうど人物写真の創作活動の中でひとつの壁に当たって悩んでいた頃、奈良県・大台ヶ原の原生林に出会ったんです。自然に朽ち果ててゆく樹があれば、その中から新しい芽



を出すものもあり、そこに生命のつながりのようなものを感じました。生まれるものと、死にゆくもの。すべてが自然に戻って果てしなく繰り返される原生林の営み。かつて戦争で肉親や友人を亡くし、絶望感に打ちひしがれた経験を持つ私の人生観がそこに重なり、強い感動を覚えたんです。私は特に樹の中でも、常緑樹よりはブナをはじめとした落葉樹が好きなのですが、その理由もこうした人生観と無縁ではありません。春に新芽をふいて夏には鮮やかな緑を輝かせ、秋は紅葉して冬には葉を落とす。四季それぞれの移ろいを見せる落葉樹に、より魅力を感じるんです。

また、こうした樹を求めて山中へ入ってゆくと、必然的に美しい溪流などにも出会ったります。そこで立ち止まって「きれいだなぁ」と見とれて、「せっかくなぁ」とない場面に出会えたんだから、これも撮っておこう」ということになるんです。「水」というのは、南方からやってきた雲が、日本列島の上空で雨を降らし、谷川の水となって山を下り、海に注いでまた空へ戻ってゆく、といった繰り返

返しのサイクルがありますよね。やはり何か、樹と共通する部分を感じられ、こうした自然の力に私は強く惹きつけられるんです。「樹」を撮り始めて山を歩いているうちに「水」と出会い、この両方を一生のテーマとしてやっていきたい

と思ったんです。

「強調」と「排除」により、自分が何に惹かれたかを表現する。

「こうした自然を撮る中で、特に先生がポイントとされていることは何でしょうか？」

私は、作品に自分の感情を盛り込んだ表現というのを大切にしています。単にシャッターを切っているだけでなく、自分が感動や驚きを感じた「自然との出会いの一瞬」を切り取っているつもりです。

樹という被写体は、物言わず立っているだけのように見えても、ある瞬間、撮影者の心に語りかけてくる時があるんです。例えば雨あがりの一瞬、一本の樹のまわりに霧がたっていた様子にハッとと思って撮影したことがあるんですが、このように天候の変化とも相まって、瞬間的な風景が私の心に訴えてくるんです。こうした珍しい光景は、あらかじめ撮ることを予定はできません。だからほとんど偶然の出会い、その一瞬に自分が何を感じられるかが大切なんです。

また、その出会いのイメージを追求して、試行錯誤を繰り返すこともあるんです。ある時、車で林道を走っていて、その流れる風景の中に見えたカラマツの樹に、一瞬の衝撃を覚えたんです。その場に戻っていったらもう一度見ても、ただのカラマツが立っているだけなんです。その一瞬のイメージをどうしても再現したくて様々な手法を試み、結局思い通りの写真が撮れるまでに3年間かかりました。

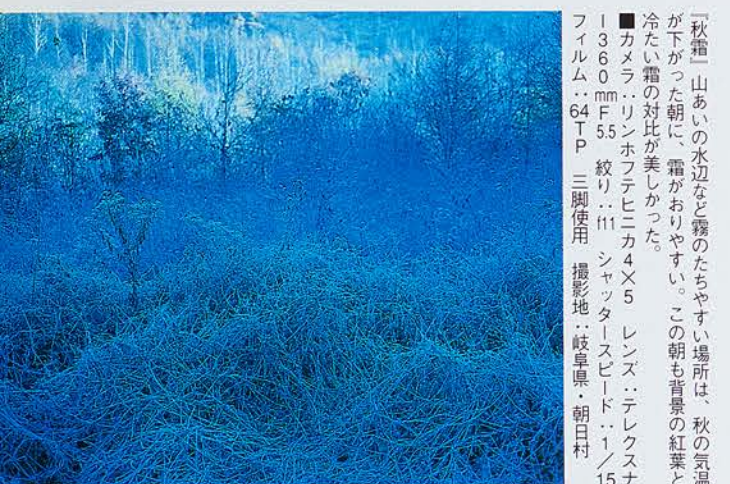
技術的には、どんなことに工夫されているのでしょうか？



【緑の溪流】奥蓼科・明治湯の下にこの溪流はある。上流にも温泉があるためか、見事な苔に覆われて美しい景観となっている。スローシャッターで幻想的な世界を表現してみた。■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：Sジンマー210mmF5.6 絞り：f22 シャッタースピード：1秒 フィルム：EPR 三脚使用 撮影地：長野県・奥蓼科



【雪の深谷】秋山郷は、鈴木牧之の「北越雪語」にも紹介されるほど、昔から豪雪地帯として知られた。その深谷に、雪が降り続いた。■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：Sジンマー210mmF5.6 絞り：f8 シャッタースピード：1/30 フィルム：50D 三脚使用 撮影地：新潟県・津南町

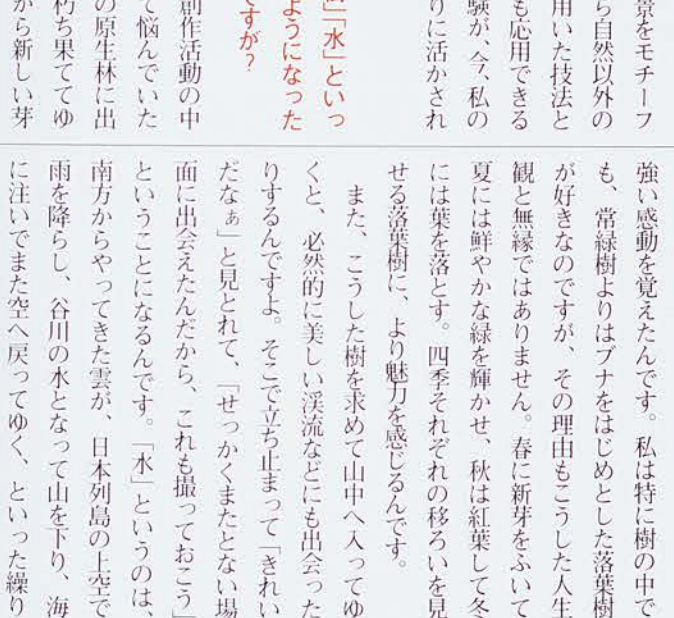


【秋霧】山あいの水辺など霧のたやすい場所は、秋の気温が下がった朝に、霧がおりやすい。この朝も背景の紅葉と冷たい霧の対比が美しくかった。■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：テレックスナ1360mmF5.5 絞り：f11 シャッタースピード：1/15 フィルム：64TP 三脚使用 撮影地：岐阜県・朝日村

【静日】私はダムはあまり好きではないが、この日の九頭龍湖はとても美しく、静かな時が流れていた。■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：アポテレクスナ-400mmF5.5 絞り：f8 シャッタースピード：1/125 フィルム：64TP 三脚使用 撮影地：福井県・九頭龍湖

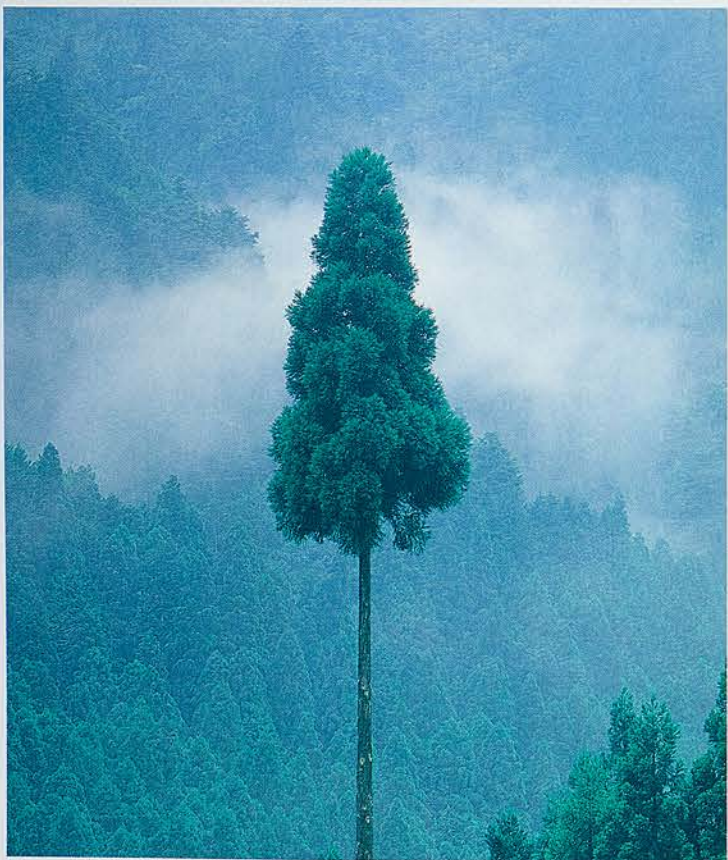


【ウィルソン株】ウィルソン博士によって発見されたこの屋久杉の切り株は、樹齢3000年といわれる。八畳敷のほころの中に、こんこんと湧く清水が美味しい。■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：スーパーアングュロン65mmF5.6 絞り：f8 シャッタースピード：1/8 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：鹿児島県・屋久島



【秋田杉】秋田県・二ツ井町の山に秋田杉の天然林がある。見事な杉が林立して、通常は横位置で作画するワイドカメラを縦位置で使用して高さを表現してみた。■カメラ：YOHOSUPERVIEW6×17（自製カメラ）レンズ：スーパーアングュロン65mmF5.6 絞り：f22 シャッタースピード：1/2 フィルム：50D 三脚使用 撮影地：秋田県・二ツ井町

「漁り火」私の目的は、美しい富山湾の日の出を見ることだった。ところが北陸の空は暗雲が垂れ込め、それは望めなかった。しかしそのかわりに漁り火を見ることができた。
 ■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：テレクスナー360mmF5.5 絞り：f8 シャッタースピード：1/2 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：富山県・氷見市



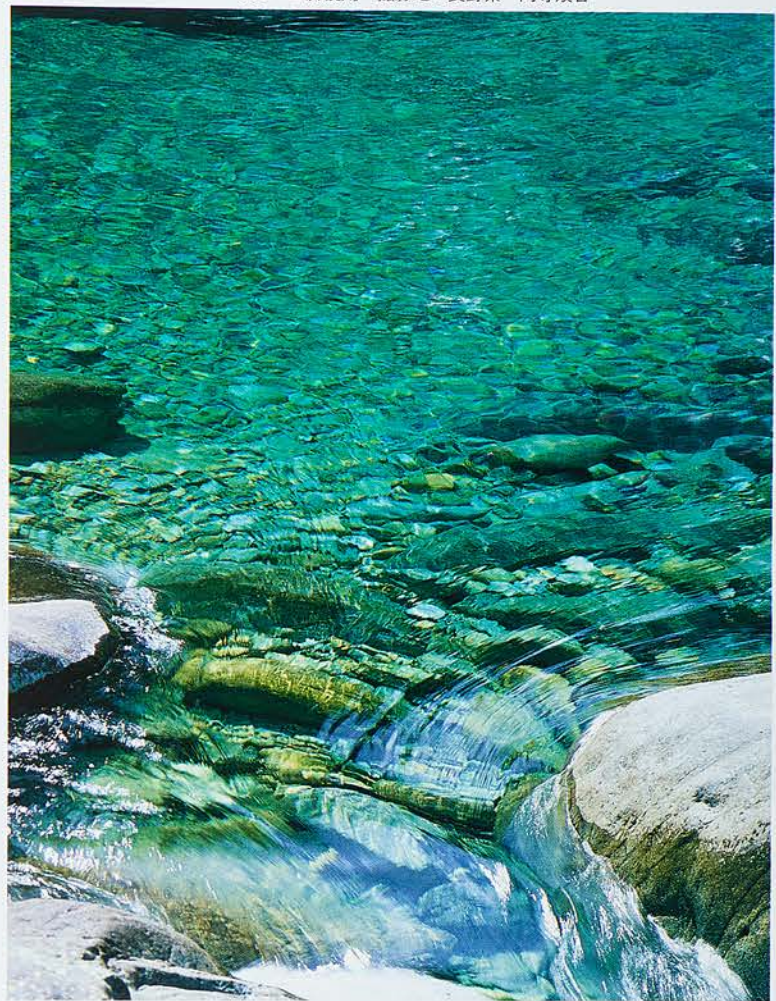
「霧」雨の左々里峠を越えて、美山の里に近づいた時、前方にある一本の杉が目に入った。おりから川筋に霧がたち、杉を際立たせた。その存在感が私を魅了した。
 ■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：フジノンT600mmF12 絞り：f16 シャッタースピード：1/8 フィルム：EPR 三脚使用 撮影地：京都府・美山町

感動や驚きが表現されてこそ、人の心を動かす作品となる。

私はフィルターというものをほとんど使わないんです。というのは、ある瞬間の「光との出会い」を、自分の眼で美しいと感じてシャッターを切るわけですから、そこで偏光フィルターなどを使って光をカットしてしまうことは、私からすれば作られた別の世界であって、自分が感動した風景そのものではない。せっかくなので出会いを殺してしまうことになるんです。もちろんフィルターを使うことも、表現手段として間違っているわけではないけれども、私自身から、他の人に強要はできませんけれども、私自身のオリジナリティを表現するための

「写真作法」としては、そういう撮り方をしたいと常々思っています。

また、私は「自分が心を動かされたものだけを強調し、余計なものを排除する」ことを心がけています。絵画であれば、風景に邪魔なものがあったとしても、それをはずして描くことは容易ですが、写真の場合は写したくないものも含め、レンズに映ったものがすべて描写されてしまいます。だから私は自分の表現したいものだけにピントが合うように、必要な時以外はレンズを絞り込むことはしません。また、自在なピント合わせができるように、大判カ



「翠色の溪」どんな大雨でもこの渓谷は濁ったことがない。付近が木曾檜の森林で構成されているためだが、岩盤も白色の花崗岩で、水をいっそう美しく見せている。

■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：テレクスナー360mmF5.5 絞り：f8 シャッタースピード：1/125 フィルム：50D 三脚使用 撮影地：長野県・阿寺渓谷



「雲上の日の出」この弥高山は、標高600メートル程度の低い山だが、秋ともなれば雲海が発生して山並も連なり、撮影にはおすすめの場所である。しかも毎回同じ光景はない。
 ■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：アポテレクスナー400mmF5.5 絞り：f8 シャッタースピード：1/125 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：岡山県・弥高山



「福積」私が最も美しい渓谷と愛している渓流に、秋の季節が過ぎようとしていた。鮮やかな紅葉がそれを伝えていた。
 ■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：テレクスナー360mmF5.5 絞り：f8 シャッタースピード：1/60 フィルム：50D 三脚使用 撮影地：長野県・阿寺渓谷

メラを主に使っています。「自分が何に惹かれたのかを表現したければ、それ意外のものを整理してゆく」というのも私の「写真作法」であり、そのためには長焦点レンズを使ったり、画面構成を工夫したりといったことも含め、技術的に様々な方法を駆使しているんです。

一枚一枚のシャッターに、撮る者の気持ちや注意力を込める。
 最後に、本誌を読まれているアマチュアの方々に対するアドバイスをいただければと思います。

シャッタースピードの判断ができなければ、少しずつ変えて何枚か撮り、それを自分のデータとして経験を積み重ねていきます。ただし、闇雲に枚数を撮れば良いというものではありません。とにかくたくさんシャッターを切って、後でその中からいいものを選ぶ、という撮り方をされる方もいますが、私は自分が何かを感じた瞬間を大切にすべきだという考えなので、撮影時の心構えとしては「この一回のシャッターで、狙った一枚を撮る」という意識を持っていただきたいと思っています。結果的に撮影枚数が多くなっても構いませんが、その一枚一枚には撮る人の気持ちや注意力がしっかりと込められていなければなりません。「一枚か撮ったうちの一枚がうまく写っていればいいや」という気持ちで撮っていると、やは

りそこに油断が生じ、いざという時に一瞬のシャッターチャンスを逃してしまうことになるんです。

キタムラさんでも数々のコンテストを主催しておられますが、やはり入賞するためには審査員の心に作品のオリジナリティを強くアピールすることが必要でしょう。こうした作品の強い訴求力というのは、撮る人がその瞬間に何かを感じて、自身の表現力をフルに発揮することで生まれるのではないのでしょうか。単にきれいな風景だからカメラを向けたというだけでは、人の心を動かすことはできないだろうし、本当のシャッターチャンスとの出会いとは言えないのだと私は思います。

どうもありがとうございました。

津田洋甫先生が撮影した「日本の四季」

四季それぞれの貌をもつ日本の風景。その自然の営みの中に、素晴らしい出会いの瞬間を追い求める写真家・津田洋甫先生に、日本各地の美しい自然風景を、ご自身の作品で紹介していただきました。



『燃ゆる』この日も朝から小雨が降り続き、陰鬱な天候だった。夕刻西の空が割れ始め、赤みが差したと思ったら、全天が真っ赤に染め上がった。感動の一瞬だった。

■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：テレクスナー360mmF5.5 絞り：f22 シャッタースピード：1/15 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：鹿児島県・屋久島



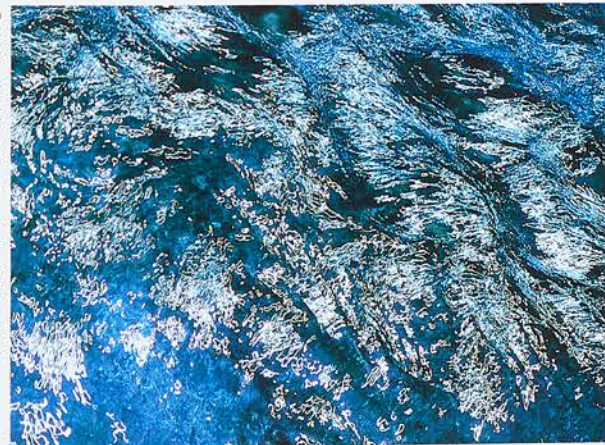
『霧の朝』梅雨はうとうとくもあるが、情緒にも富むので私は嫌いではない。朝食前に宿を飛び出し、湖畔を車で流していたら、霧が日本画のような世界を演出していた。

■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：Sジンマー150mmF5.6 絞り：f8 シャッタースピード：1/60 フィルム：EPR 三脚使用 撮影地：福島県・只見町



『雪原』誰もいないサロマ湖の北岸を訪れたら、雪原の葎と木立が私を惹きつけた。

■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：テレクスナー360mmF5.5 絞り：f11 シャッタースピード：1/125 フィルム：EPR 三脚使用 撮影地：北海道・サロマ町



『流光』半逆光の流れの上に、無数の陽光がきらめいている場面。スローシャッターにより光が線となって、私が頭の中で描いていたイメージの作品となった。

■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：Sジンマー1210mmF5.6 絞り：f32 シャッタースピード：1/4 フィルム：64TTP 三脚使用 撮影地：長野県・上高地



『冬若木』丹波の農家の畑で見た、たぶん庭木の苗木だと思う。雪の中に繊細な直線美を描いて私を惹きつけた。メトロポリタン美術館に収蔵された中の一枚である。

■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：テレクスナー360mmF5.5 絞り：f22 シャッタースピード：1/15 フィルム：100D 三脚使用 撮影地：京都府・美山町

『縄文杉』写真展を開催する上で、どうしても縄文杉の作品が必要だった。20キロの機材を担いでの登山は苦しかったが、対面した時の感動は表現しがいものだった。

■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：テレクスナー360mmF5.5 絞り：f22 シャッタースピード：1/15 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：鹿児島県・屋久島



『凍る滝』通常は断崖の上から絹糸のような滝が落ちているが、この冬に訪れてみれば、無数の針の連なりに姿を変えていた。

■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：フジノンT600mmF12 絞り：f16 シャッタースピード：1/8 フィルム：EPR 三脚使用 撮影地：大分県・由布溪谷



『凍湖』かつてここには2000戸の集落があったが、ダム建設のため水没してしまった。この冬、減水した湖面が氷結し、庭木が美しい造形となって現れた。歴史を知る半月型に溶けた模様が悲しい美しさだ。

■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：フジノンT600mmF12 絞り：f22 シャッタースピード：1/30 フィルム：EPR 三脚使用 撮影地：滋賀県・永源寺町



『緑の清水』この白水村では湧水が各所で見られるが、山腹に見られるこの湧水は、見事な苔の中を糸清水となって湧き出している。

■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：テレクスナー360mmF5.5 絞り：f11 シャッタースピード：1/30 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：熊本県・白水村



『大台ヶ原原生林』この原生林との出会いが私の写真の出発点となった。その中で繰り広げられる、自然の摂理に感動したからである。

■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：Sジンマー210mmF5.6 絞り：f16 シャッタースピード：1/2 フィルム：EPR 三脚使用 撮影地：奈良県・大台ヶ原



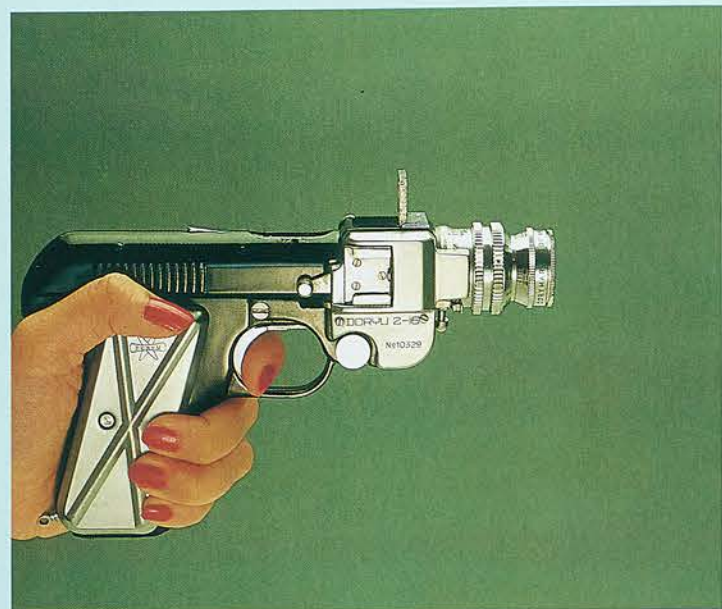
『晩秋の林』この大山も、西のブナ林として有名である。新緑や紅葉で美しくなった葉は落ち、裸木が寒々しい光景を作っている。タングステンフィルムでそれを強調した。

■カメラ：リンホフテヒニカ4×5 レンズ：Sジンマー1135mmF5.6 絞り：f11 シャッタースピード：1/30 フィルム：64TTP 三脚使用 撮影地：鳥取県・大山



戦後の復興期、カメラには遊び心があった 日本カメラ博物館 PART2

戦後の昭和20年代、まだ人々は生活物資にも事欠いていた時代に、「豆カメラ」と呼ばれる、手のひらにすっぽりと納まってしまうような小型カメラが続々と登場した時期がありました。また一方では時計や双眼鏡・ピストルなど、様々な道具を型どった「珍奇カメラ」も見られるなど、当時のカメラには遊び心やユーモアがあふれていました。戦後で遊びや楽しみも今ほど満たされていなかった時代に、夢を与えてくれたこれらのカメラは、当時の人々の目にはことのほか輝いて見えたことでしょう。



ドリユー2-16 (昭和29年)
珍しい日本製のピストル型カメラ。グリップにはマグネシウム閃光弾6発を弾倉に詰めて装填、上方に打ち上げ発光させた。16ミリフィルム使用のレンズ交換式。(常設展示)

先号でもご紹介した東京・千代田区の「日本カメラ博物館」では、こうした一時代を物語る、豆カメラや珍品カメラのいくつかを見ることが出来ます。ボディの高さが38mmという超小型カメラ「スナッピー」、そして当時流行っていた「眼レフカメラ」をそのままミニチュアにした「ジエムフレックス」はどちらも昭和24年発売の豆カメラ。また名画「ローマの休日」ではオーディリー・ヘプバーンが王女を、そしてグレゴリー・ペックが新聞記者を演じていますが、そのラスト近くの記者会見のシーンで、グレゴリー・ペックの友人で

あるカメラマンがライター型のカメラを取り出し、王女が驚く場面を皆さんも覚えておられるでしょう。そのカメラは意外にも「エコーエイト」という昭和26年発売の日本製のもので、同博物館に常設展示されています。我が国の産業が復興を遂げた昭和30年代に入ると、こうした遊び心にあふれたカメラはだんだんと消えていったようです。その後わが国のカメラはドイツをはじめとしたヨーロッパの製品に追いつき、追い越すまでに発展を遂げたことを考えると、こうした豆カメラなどを作ることで、日本のメーカーは技術に磨きをかけたいたのだと言えるかも知れません。カメラ史の片隅に咲いた小さな花と、それらをこよなく愛した人々。「日本カメラ博物館」に並ぶ戦後の豆カメラ・珍品カメラを眺めていると、当時の人々の遊び心が、私たちに語りかけてくるような気がします。



ジエムフレックス (昭和24年)
二眼レフカメラをそのまま小型化した形がユニークな豆カメラ。ピント調整はできないものの、ほぼ実際の二眼レフと同じように操作できる。(常設展示)



スナッピー (昭和24年)
小西六写真工業 (現在のコニカ) 製の超小型カメラ。豆カメラとしては珍しいレンズ交換式で、40mm望遠レンズが付いている。(常設展示)



エコーエイト (昭和26年)
映画「ローマの休日」に登場したことで評判が高まり、当時としてはかなりの数が量産されたライター型ミニカメラ。シャッタースピードや絞りの切り替えも可。(常設展示)

あるカメラマンがライター型のカメラを取り出し、王女が驚く場面を皆さんも覚えておられるでしょう。そのカメラは意外にも「エコーエイト」という昭和26年発売の日本製のもので、同博物館に常設展示されています。我が国の産業が復興を遂げた昭和30年代に入ると、こうした遊び心にあふれたカメラはだんだんと消えていったようです。その後わが国のカメラはドイツをはじめとしたヨーロッパの製品に追いつき、追い越すまでに発展を遂げたことを考えると、こうした豆カメラなどを作ることで、日本のメーカーは技術に磨きをかけたいたのだと言えるかも知れません。カメラ史の片隅に咲いた小さな花と、それらをこよなく愛した人々。「日本カメラ博物館」に並ぶ戦後の豆カメラ・珍品カメラを眺めていると、当時の人々の遊び心が、私たちに語りかけてくるような気がします。

日本カメラ博物館
〒102 東京都千代田区一番町25番地
JCI1-一番町ビル
TEL:03-3263-7110

- 開館時間/10:00~17:00
- 休館日/毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
- 入館料/一般300円(団体200円)
小・中学生100円(団体50円)
- 交通/地下鉄半蔵門線・半蔵門駅下車
④番出口から徒歩1分、
都バス(新宿西口⇄晴海埠頭)
半蔵門下車徒歩4分

特別展開催中 **「なつかしのホームムービー展」**
9月21日(日)まで

写真おもしろい歴史ストーリー 13



F・新次元。



そして 映像は未体験領域へ
Nikon F5

希望小売価格(税別)
ボディ本体(ストラップ付) ¥325,000
AFニッコール50mmF1.4D付 ¥360,000
標準装備:マルチフォトリックファインダーDP-30・
EC-Bスクリーン

■カタログをご用意しています。機種名をご明記の上、100-91東京中央郵便局私書箱1269号 株式会社ニコン お客様相談室迄請求ください。

株式会社 **ニコン** 本社 100 東京都千代田区丸の内3-2-3(富士ビル) 製品に関するお問い合わせは「お客様相談室」まで。電話(03)3216-1010

京セラ株式会社

Dynamic Maturity
CONTAX G2



- アクティブ方式とバッシュ方式併用による高速・高信頼性のオートフォーカスシステム。
- 大型フォーカスダイヤルにより操作性を向上させたマニュアルフォーカス。
 - 最高速1/6000秒、ストロボシンクロ1/200秒の高速シャッター搭載。
 - 最高約4コマ/秒の高速モータードライブによる撮影レスポンス向上。
- Gシリーズ用最新交換レンズ、Biogon T* 21mm F2.8、Planar T* 35mm F2を同時発売。
- メーカー希望小売価格(税別)/G2本体:163,000円、データバックGD-2:65,000円、
ビオゴン T* 21mm F2.8:120,000円、プラナー T* 35mm F2:47,000円

お問い合わせ:京セラ(株)光学機器事業本部
〒150 東京都渋谷区神宮前6-27-8 TEL.03(3797)4611(代)
◎京セラインターネットホームページ <http://www.kyocera.co.jp/>

「滝」を撮る

打ちつける水を真近に感じ、音や冷たさまでも表現したい。
永瀬嘉平氏（ナチュラリスト）

日光・華厳の滝をはじめ、滝といえば観光名所となっている所も数多い。環境庁のデータによれば、落差5メートル以上の滝は全国で2500ヶ所近くあるといわれる。「私はもっとたくさんあるのではないかと思っただけです。東京だけでも100ヶ所位はあるんですから。いずれにしても日本が世界で一番多いのではないのでしょうか」と語るのは、今回取材をお願いした永瀬嘉平氏だ。永瀬氏はもとも記者として新聞社などに勤務した後、フリーの立場で本格的に写真を撮り始め、滝はもう30年以上も撮影し続けているテーマだという。

「ナチュラリスト」を自称し、「写真を撮る行為そのものよりも、野山を歩き回って被写体を見つけるまでの過程が楽しい」と言う永瀬氏の作品集を拝見すると、四季折々の自然に彩られた日本全国の名瀑が、今にも水音が聞こえてきそうな力強さと美しさで見守る者に迫ってくる。滝の一番の魅力は何かとお尋ねすると、「姿かたちが千差万別で、同じものはふたつとないこと。滝というのは単に水が打ちつけているだけでなく、松やモミジ、苔といったその場所ごとの植生があつて、また岩壁の鉱物組成もそれぞれ違うんですよ。そして四季ごとの変化がまた面白くて、ひとつの滝を何度も訪ねたくなるんですよ」と永瀬氏は答えてくれた。また「ひとつの滝でもその時々によつ

て光の状態や自然条件は変わり、同じ写真というのには「度と撮れない」のだから、その瞬間にしか出逢えない。一期一会のシャッターチャンス大切にしたいと彼は言う。

永瀬氏の撮影スタイルには、ちよつと我々には真似のできない凄さがある。まず、車も使わずに道なき道を何キロも歩き回り、山奥に隠れた滝を捜し当てるといふ被写体に対する執念。そして遠くからカメラを据えて撮るのでなく、滝壺の冷たい水に体ごと浸かつて撮影にこだわるバイタリテイ。こうした撮影を続ける中で、時には崖から滝壺に転落したり、またある時は山中で道に迷って遭難しかけたりと、危険な目にもたびたび遭っているという。やはり写真家というよりは、「ナチュラリスト」の呼び名が彼にはふさわしい。



「滑川の大滝」東北地方屈指の大瀑。雪どけの滝壺で泳いだあと、滝壺から流身を撮る。
■カメラ：ニコンF4 レンズ：35mm～105mmズーム 絞：f11 シャッタースピード：1/60 フィルム：プロビア 撮影地：山形県米沢市



「天滝」まるで天空から駆け下ってくるような勇壮な滝。水の変化が印象的。
■カメラ：ニコンF4 レンズ：35mm～105mmズーム 絞：f8 シャッタースピード：1/60 フィルム：プロビア 撮影地：兵庫県大屋町

「他人と同じ、あたり前の写真は撮りたくないんですよ。滝の写真というと、水が布状・糸状に流れるように撮っている人が多いでしょう。もちろんそういう撮り方でいい写真も多いのですが、私自身は滝をできるだけ真近でとらえたいんです。遠くで見ると、静かに白く糸を引いているように見える滝も、近くに行くと、水と岩とが激しくぶつかっている様子がわかるんですよ。そんなところを早めのシャッタースピードで撮るのが私は好きなんです」。

滝というモチーフによって、作品を見る人に一番伝えたいことは何かと伺うと、「滝の持つ清浄感とか、透明感ですね。そういう純粋なもの、今の世の中には少なくなっているような気がするんですよ」と永瀬氏。「昔はよく人に、滝の音と冷たさを撮りたいなんて言って笑われてましたけど（笑）。でも、今でも何とかしてこれらを写真に表現したいと常々思っているんですよ」。この「音や冷たさ」までも撮りたいという「永遠のテーマ」が、彼を滝壺の中にまで引き込むのであろうか。

「私は撮影する上では、滝に近づいて撮りたいんですが、自然な状態を守るといふ意



図的な状態を守るといふ意

「霧九十九滝」主瀑のカレイの滝。滝壺に「みこし」が入る神事で知られる。暗い滝壺にわずかに日射が入った。腹這いになって撮影。
■カメラ：ニコンF4 レンズ：35mm～105mmズーム 絞：f8 シャッタースピード：1/15 フィルム：プロビア 撮影地：徳島県海南町



ながせ かへい
1940年東京都生まれ。日本大学法学部新聞学科卒。デザイン事務所、出版社を経て毎日新聞社へ。『毎日グラフ』『サンデー毎日』記者、『カメラ毎日』副編集長などを経て1993年フリーに。写真展「三回」。写真集『瀧』（駈々堂）、『日本の瀧』（毎日新聞社）、『百木巡礼』（佼成出版社）、『神の木と会う』（神無書房）、『巨樹を歩く』（書苑新社）。CD-ROM『日本の瀧』。他に紀行集、画文集なども出版。



「安の滝」悲しい伝説が残る東北の秘瀑。10月中旬、あたりは朱色一色になる。滝壺に半身沈めて撮影。
■カメラ：ニコンF4 レンズ：35mm～105mmズーム 絞：f8 シャッタースピード：1/60 フィルム：プロビア 撮影地：秋田県阿仁町



「田原の滝」松尾芭蕉が絶賛したこの滝も、あたりには人工物が進出している。
■カメラ：ニコンF4 レンズ：35mm～105mmズーム 絞：f8 シャッタースピード：1/125 フィルム：プロビア 撮影地：山梨県都留市



「雪輪の滝」命名のように撮りたいと思っただけで二度訪ねた。高さこそないが美しい滝だ。逆光になってはじめて輪ができる。
■カメラ：ニコンF4 レンズ：35mm～105mmズーム 絞：f11 シャッタースピード：1/30 フィルム：プロビア 撮影地：愛媛県松野町

GA645は、画質の面でも中判カメラとブローニーフィルムならでは高いレベルを実現(右)。35mmカメラで撮った作品(左)と比べると、夕方の宵闇の様子が細かい部分までデリケートに表現されていることがわかる。



「株営業本部参事の山田佳彦氏はエピソードを語ってくれた。新たな中判ユーザーの開拓に成功したGA6



富士写真フィルム株営業本部参事 山田佳彦氏

富士写真フィルム株営業本部参事 山田佳彦氏

は昨年4月の登場から約1年間で、すでに国内カメラ市場の約1/3を占めるまでに急成長を遂げている。またGA645が発売される前の1994年に市場全体の国内出荷が約2万台にすぎなかった中判カメラが、昨年は約3万3千台にまで台数を伸ばしているという。富士フィルムの広い視野に立ったユーザー指向が、これからも写真やカメラの持つ新たな可能性を、我々に提案してくれることだ

氏。なるほど実際にGA645で撮られた作品と35mmカメラによるものとを比べてみると、画質の違いが明らかにわかる。



富士写真フィルム株光学機器事業部・主任技師 浜田寿氏

GA645を使用するユーザーの側からみると、購入者の4割が「中判初心者」だという。「当初の考えでは、やはり中判カメラの使用経験者をターゲットに考えていたんですが、実際に発売してみると、基本的な操作方法に関する問い合わせが非常に多いんですね。そこで急ぎよ、アマチュアユーザー向けのガイドブックを作ったんです。これも結構費用がかかったんですが、ユーザーの皆さんに満足していただき、さらに中判のファンを広げてゆくためには必要なことですか」と、富士写真フィルム株営業本部参事の山田佳彦氏はエピソードを語ってくれた。新たな中判ユーザーの開拓に成功したGA6

APSのエピオンシリーズで、多様化するユーザーに対応。



富士写真フィルム株光学機器事業部主査 津田三佐雄氏

富士写真フィルム株光学機器事業部主査 津田三佐雄氏



富士写真フィルム株光学機器事業部主査 津田三佐雄氏



富士写真フィルム株営業本部参事 山田佳彦氏

富士写真フィルム株営業本部参事 山田佳彦氏

富士写真フィルム株光学機器事業部主査 津田三佐雄氏



富士写真フィルム株光学機器事業部主査 津田三佐雄氏



富士写真フィルム株光学機器事業部主査 津田三佐雄氏



富士写真フィルム株光学機器事業部主査 津田三佐雄氏



富士写真フィルム株光学機器事業部主査 津田三佐雄氏

富士写真フィルム株光学機器事業部主査 津田三佐雄氏



FUJIFILM

メーカー探訪⑧

富士フィルム編

新たな写真の可能性を拓くユーザー指向の製品作り。

1934年に感材メーカーとして発足した富士フィルムは、その後カメラ部門にも進出し、フィルムとカメラの両面から写真文化の発展に貢献し続けてきました。現在は様々な分野に事業内容を広げ、カメラや写真用品にデジタル機器なども含めた映像システムの構築を図っている同社をお訪ねし、近年の話題製品であるGA645とエピオンシリーズの開発についてお話を伺いました。

中判カメラの潜在ニーズ開拓に成功したGA645。

デジタル化、コンパクト化、オート化など、様々な流れの中で各社が製品開発を競う近年のカメラ市場。その中で、「誰にでも手軽に使える中判カメラ」という発想から生まれたユニークな製品が、一昨年に発売された。それが世界初のフルオート中判・GA645だ。中判カメラといえば、35mmカメラと比べて画質では勝るものの、「大きい」「重い」「操作が煩わしい」「価格が高い」といったデメリットのために、これまでアマチュアカメラマン

から敬遠されてきた面がある。GA645はこれらの問題を極力解消し、アマチュアにも使いやすいとした中判カメラだといえよう。まず、大きな点は沈胴式レンズを採用した薄型ボディにしたことで、カメラバッグなどにも簡単に納まる携帯性を実現し、重さも815gと非常に軽い。操作面では中判カメラとしての優れた機能を備えながらも、誰もがコンパクトカメラ並みに手軽に扱えるプログラムモードや、撮影距離によって最適な測距方式をカメラが自動的に使い分ける「ハイブリッドオートフォーカス」なども装備している。また値段も中判カメラとしては手頃な

価格に抑えてある。

こうした一般ユーザーに向けた使いやすさに加え、中判本来のメリットである画質の点でもGA645は高いレベルを保っている。「クオリティの高い写真を、いかに手軽に撮れるようにするかが、このカメラの開発コンセプトでした。そのために、レンズも独自の設計を採用しています。写真になった時の立体感やディテールの再現など表現力の豊かさというのは、やはりブローニーのフィルムサイズとレンズの良さがあってこそ実現できたんです」と語るのは、富士写真フィルム株光学機器事業部・主任技師の浜田寿

速いシャッタースピードで、一瞬を逃さずにとらえよう。

「子供と動物は撮影が難しい」というのは、プロのカメラマンの口からも、よく聞かれることです。これは子供も動物も、なかなか撮影する側の言うことを聞いてくれないこと、どちらにもよく動くために、速いシャッタースピードで撮影しないとブレてしまうことが多いからです。

実際、子供は寝ているとき以外は片時もじっとしてはいません。屋外に出ればなおさらです。本来、子供のやわらかい肌の質感は、多少シャッタースピードを遅くして、ソフトな撮影を心がけた方が、写真上での再現はよいはずなのですが、そうはうまくいかないところが写真の難しいところでもあり、また、

楽しいところでもあります。そこで今回は、子供の屋外撮影を中心に、速いシャッタースピードで撮影を行うポイントを紹介いたします。

コンパクトカメラではほとんどの場合、撮影者はシャッタースピードをコントロールできません。そこでISO400といった高感度フィルムを使用します。

コンパクトカメラにISO400を使用すると、オートフォーカスであれば、カメラは自動的に1/125秒の速いシャッタースピードにセットするのです。1/125秒のシャッタースピードならば、子供の素早い動き



望遠レンズを使用し、高速シャッターで撮影。シャッターチャンスをうまくとらえれば、このようにボールまで写し撮ることができる。

にも、被写体がブレてしまうといったことは起きません。また、この感度のフィルムなら、夕暮れなどの、多少薄暗い状況でも被写体の質感を、それほど損なうことがありません。

一眼レフカメラでシャッタースピード優先にセットし、シャッタースピードを速くすると、天候にもよりますが、原則としては、シャッターが短時間しか開きませんので、不足しがちな光を多く取り入れようとして、絞りは開放に近いゆきまます。この結果、被写界深度は狭くなり、バックはボケる傾向があります。

例えば曇天で1/500秒以上の高速シャ



子供の動きは写真に撮ろうとすると、予想以上に速い。特にこのようなスポーツシーンでは、シャッタースピードも大切だが、あらかじめ被写体の動きを予測してカメラを構えることも重要なポイントになる。

これは慣れないと難しいかもしれませんが、

スポーツシーンの撮影では、ブレいしている子供の周りで撮影するわけにはいきません。そこで遠くからでも被写体を大きく写すことができる、望遠レンズが欲しくなります。野球のグラウンドであれば200ミリ程度の望遠レンズを用意すれば十分でしょう。ただしレンズも重くなりますし、多少の手ブレでも仕上がりに強く影響しますので、三脚も忘れないようにしましょう。

また、スポーツシーンでは自分の狙ったシーンより、気持ち早めにシャッターを押すように心がけていないと、撮り遅れてしまいうので注意しましょう。スポーツの瞬間は一度と同じシーンがなく、何枚も撮って後から選ぶ、ということができないからです、こ

子供の写真はシャッタースピードが遅ければ、それで良い写真になるというものではありません。たとえば、「子供の写真は子供の目の高さで撮れ」とはよく聞かれる基本ですが、基本どおりに子供の目の高さで撮ったからといって、必ずしも良い写真が撮れるということでもないのです。大切なのは「かわいい」と

思った瞬間を逃さないこと。その瞬間が、たまたま速いシャッタースピードが要求されるシーンで、撮り損なったとしたら後で後悔します。そんなことのないように、これを機会に高速シャッターでの撮影にも慣れ親しんでみてはいかがでしょうか。決定的瞬間は待つ

てはくれません。しかし、それだけに、その瞬間を思いどおりに写真にできたときの喜びは、撮った者にしかわからない、ひととき大きなものとなります。

屋外で遊んでいる子供の動きの速さは、スポーツをしてる時と変わらない。高速シャッターでなければブレてしまう。



カメラのキタムラ 第5回チビッコ写真コンテスト開催!

- 募集期間：平成9年7月15日(火)～8月31日(日)
- 賞金・賞品総額：150万円

※詳しくは、7月中旬よりカメラのキタムラ各店に設置されるポスターまたは応募用紙をご覧ください。



第4回チビッコ写真コンテストグランプリ作品
「游泳中」橋本秀夫



第4回チビッコ写真コンテスト
最優秀賞作品「いもほりうんこ」
しよしよ 富原奈津江



第4回チビッコ写真コンテスト 優秀賞作品
「祭りの子供」堀 賢一

RICOH

レンズの力。リコーGR1誕生。



GR1

ボディカラー：ブラック/シルバー (サイズ：117mm×61mm×26.5mm)

メーカー希望小売価格 GR1 本体 (革ケース・ストラップ込) … ¥90,000 (税別)
デット付 … ¥100,000 (税別)

リコーカメラお客様相談窓口
0120-007962
〒104 東京都中央区銀座6-14-7 株式会社リコー パーソナル事業部
受付時間 月曜から金曜/9:30~18:00 土曜/9:30~15:00
日曜・祝日はお休みさせていただきます。

OLYMPUS
人から発想します。オリンパス

世界で愛されて700万台。
あのミューシリーズに、
美しいデラックス、登場。

美しさと手にやさしくフィットする小型軽量ボディで、世界中の人たちから愛されているミュー。多彩な機能を満載し今、さらにエレガントな進化を遂げました。

●生活防水 ●高精度マルチAF ●多彩なフラッシュ機能 ●ハイブリット非球面レンズ ●パノラマ機構など多機能が満載です。



38~105mm 3倍ズーム
**Mju:ZOOM
105 DELUXE**
メーカー小売希望価格
¥54,000 (リモコン・ケース・ストラップ付)



35~70mm 2倍ズーム
**Mju:ZOOM
70 DELUXE**
メーカー希望小売価格
¥40,000 (リモコン・ケース・ストラップ付)

さらにエレガントに、
美しくなったスマートフォンビューティ。登場。

PENTAX



魔法カメラ

シルバー
新登場

世界初オートピクチャープログラム搭載
超小型軽量AF一眼



MZ-10

グッドデザイン選定商品

希望小売価格(税別)
MZ-10 ボディ(ブラック/シルバー) 60,000円
MZ-10 Fズーム35/4~80/5.6付 85,000円

世界で初めて!

撮影の状況を判断する!

いま最も進んだ自動カメラ!

だから誰でもカンタンに!

傑作写真ができあがる!

まるでプロカメラマンが
はいているみたいなの!

すごい一眼レフです!

特別出演/秋山庄太郎(プロカメラマン)

旭光学工業株式会社・ペンタックス販売株式会社 インターネットホームページ <http://www.pentax.co.jp/>

SIGMA

この視点、この1本。



NEW
APO 135-400mm F4.5-5.6 ASPHERICAL RF

APO Zoom Lenses

狙った被写体を目の前に近づける、使用領域の広い望遠ズーム。

APO 170-500mm F5.0-6.3 ASPHERICAL RF

500mmの超望遠までをカバー。あらゆる距離の被写体に対し、鮮明な描写性能を発揮。フォーカシングの際にレンズの先端が回転しないため、偏光フィルターの使用もスムーズ。

●AF・MF希望小売価格(税別): 85,000円、
ケース、フード、三脚座付

APO 135-400mm F4.5-5.6 ASPHERICAL RF

望遠領域で使用頻度の高い135mm~400mmをカバー。新開発5群移動式ズームと複合非球面レンズが、全撮影領域でハイコントラストな描写を実現。着脱式三脚座を装備。

●AF・MF希望小売価格(税別): 75,000円
ケース、フード、三脚座付



NEW
APO 170-500mm
F5.0-6.3
ASPHERICAL RF

お問い合わせはお気軽に、株式会社シグマ 〒201 東京都狛江市岩戸南2-3-15 tel. 03(3480)1431まで。

マクロ写真用品特集

Kenko

クローズアップレンズ

お手持ちのレンズでマクロ撮影を可能にするクローズアップレンズは、フィルター感覚でレンズに取り付けられる手軽なマクロレンズです。ここに紹介するケンコーのクローズアップレンズは、倍率によってNo.5~17の豊富なバリエーションが揃っています。ズームレンズにも装着が可能で、もちろんズーム機能を損なうことはありませんから、被写体の撮影倍率の幅を大きく広げることができます。



ACクローズアップレンズNo.4
希望小売価格(税別)
52・55mm用 3,400円
58mm用 6,800円

ACクローズアップレンズNo.2
希望小売価格(税別)
52・55mm用 4,800円
58mm用 6,800円

クローズアップレンズの種類

■**MCクローズアップレンズ** 最もポピュラーなクローズアップレンズで、フィルター感覚で使用することができます。

■**ACクローズアップレンズ** 複数のレンズを組み合わせた高級タイプのクローズアップレンズです。標準のズームレンズとの組み合わせに最適な設計で、シャープな画像が得られます。

■**高倍率用MCクローズアップレンズ** 高倍率の望遠レンズは、被写体とレンズの間の距離が、最短で2m前後となっていますが、それ以上被写体に近づくと、このレンズを使用します。特に大口径の望遠レンズの場合は、この最短撮影距離が長くなる傾向がありますので、大口径に対応したクローズアップレンズを使用すれば、近距離撮影が可能となります。

■**ズームクローズアップレンズ** 低倍率から高倍率まで、接写倍率を自在に調節できる変倍クローズアップレンズです。ピントは本体側で合わせます。



MCクローズアップNo.1を使用 MCクローズアップNo.2を使用 MCクローズアップNo.3を使用
MCクローズアップレンズNo.1~3は希望小売価格(税別) 52・55mm用各2,200円、58mm用各2,800円

望遠系レンズ用のMCクローズアップ
レンズNo.05をセットした状態



MCクローズアップレンズNo.05
希望小売価格(税別)
72mm用 4,400円



ズームクローズアップレンズを
セットした状態

ズームクローズアップレンズ
希望小売価格(税別) 52mm用 8,500円

マクロ写真用品特集

小さな被写体を大きく写し出すマクロ撮影。
今回はこの肉眼では味わうことができない、写真ならではの魅力ある世界、
マクロ撮影に使用する用品を集めました。



写真の楽しみ方は色々ありますが、そのひとつに「マクロ(接写)撮影」があります。小さな被写体を大きく撮影する面白さは、通常の撮影では味わうことができません。ところが、意外なことに写真ではかなりのベテランの方でも、接写は撮ったことがない、という方が少なくありません。その理由の中には、機材が通常撮影のものとは違うから、ということもあるようです。しかし、最近では接写の機材も小型・軽量化が進み、マクロ撮影もずっと身近なものとなってきています。

マクロ撮影にはマクロレンズを使用する、というのが最もポピュラーな方法です。しかし、マクロ撮影はマクロレンズがなければできないかという点、そうでもないのです。マクロレンズの代用として接写リングを装着すれば、お手持ちの一眼レフカメラとレンズでマクロ撮影ができるのです。

そこで今回は、マクロ撮影を手軽に楽しむことができる、これらの接写リングほか、マクロ撮影用品を集めました。

手軽に使用できる クローズアップレンズ

レンズの先に装着するだけで手軽に接写ができるクローズアップレンズは、撮影距離や倍率が限定されるという欠点がありますが、本体のレンズがズームレンズであっても、その機能はそのまま使えますので、初心者にも扱いやすい用品です。ただし、オートフォーカス機能は、クローズアップレンズ装着時には使えなくなります。

このクローズアップレンズは種類も豊富で、組み合わせる倍率を高くすることができるタイプや、フィルター感覚で手軽に使用できるものなど、様々なタイプがあり、マクロ撮影の入門用に最適です。

本格的なマクロ撮影にも 対応できる接写リング

一眼レフカメラ本体とレンズの間に挟むように装着する接写リングで、一眼レフ用のレンズであれば、どのようなレンズにも使用できます。一般的な望遠レンズの多くはマクロ撮影に対応していませんが、このリングを使用すると接写ができるようになります。また、近づいて撮ることのできない被写体の場合は、接写リングを装着した望遠レンズを使用すれば撮影できるようになります。オートフォーカス対応の接写リングもありますが、色々と制約があるので注意が必要です。

マクロ撮影も可能な テレコンバーションレンズ

接写リングと同じように、一眼レフカメラ本体とレンズの間に挟むように装着するリング状のレンズに、テレコンバージョンレンズ(テレコンバーターとも言います)があります。これは本来標準レンズを望遠に、望遠レンズを超望遠に変えるものですが、同じ位置で撮影しながら、被写体をより大きく写せるのですから、マクロ撮影にも使用できるわけです。

三脚を活用することで、 マクロ撮影をさらに正確なものに

マクロ撮影で三脚を使うことには、
①正確にピントを合わせられる
②被写界深度を調節できる(絞り込むことができる)
③カメラアングル・構図をじっくりと選択できる
といったメリットがあります。

撮影距離が短いマクロ撮影においては、一般的にピントの合う範囲、つまり被写界深度が浅くなります。したがって、主題となる被写体に対し、より正確なピント合わせが要求されるのです。そのためにはカメラをしっかりと固定し、じっくりとピント合わせのできる三脚が威力を発揮します。また三脚を用いることは、微妙な画面構成を検討したり、段階露出で最適露光を確実にモノにするためにも役立ちます。さらに被写体が速い動きをする昆虫などの場合、速いシャッタースピードでの対応も可能とします。

皆さんも、この機会にぜひマクロ撮影にチャレンジしてみてください。きっとまた、新たな写真の世界に出会えることと思います。

接写リング

カメラのボディとレンズの間にセットするだけで近接撮影が可能になる接写リングは、手軽に撮影倍率を大きく上げることができるうえに、接写用品の中で、最も高倍率の接写撮影が行えます。

■オート接写リングセット

長さの異なる3つのリングをワンセットにしたもので、それぞれを単体で使用したり、いくつかを組み合わせることで、7通りに倍率を変換することができます。

【適用機種】 キヤノンEOS用、ミノルタα-Xi用、ニコンAF用、ペンタックスZ用
希望小売価格(税別) ニコンAF用のみ23,000円、他はすべて16,300円



オート接写リングの
セッティング状態



3種類で1セットのオート接写リング

■ユニプラスチューブ25

35mmAF一眼レフの各種機能に連動した接写リングで、50mmレンズで倍率は約1対2までのマクロ撮影を可能にします。ただし、自動絞り、TTL、AE機構はそのまま使用できますが、ピントはマニュアルで合わせた方が正確です。各機種に適合していますが、広角レンズ、ズームレンズの広角、キヤノンEOS用ALレンズには適していません。

【適用機種】 キヤノンEOS用、ミノルタα-Xi用、ニコンAF用、ペンタックスZ用
希望小売価格(税別) 各9,000円



マクロ写真用品特集



レイノックス

接写の世界を大きく広げた マクロ探険隊&マイクロ探険隊

レイノックスの「マクロ探険隊」「マイクロ探険隊」は、レンズ前面に装着するだけの簡単さで、スピーディーに本格的な接写撮影ができる、レンズとアダプターをセットにしたシステムです。難しい操作や経験を必要とせず、マクロ・マイクロの世界を自由に撮影できます。また、どちらも超軽量で、どこへでも手軽に持ち運べます。

■マクロ探険隊CM-2000

CM-2000 は一眼レフカメラのオートフォーカス機構と連動でき、自動露出機構もそのまま作動するので、接写に初心者であっても四季おりおりの花の写真や小さな昆虫の撮影が楽しめます。35mm一眼レフの、50mm～300mmまでのレンズの先端に取り付けるだけで、0.25倍～2.5倍までのマクロ撮影が可能です。また、別売のアダプターを使用すれば中判カメラにもセットでき、高画質なマクロ画像が得られます。CM-2000は2本のマクロレンズとフリーサイズレンズアダプターで構成されていますが、1.5倍レンズ47g、2.5倍レンズ57gという超軽量さも特長です。希望小売価格(税別) 13,800円



マクロ探険隊



一眼レフにセット

中判カメラにセット



マクロ探険隊1.5倍 レンズ100mm



■マイクロ探険隊CM-3500

CM-3500は顕微鏡的なマイクロの映像を、特別なレンズや装置を必要とせずに、やはりレンズの先端に取り付けるだけの簡単なセットで撮影できます。3本のレンズとフリーサイズレンズアダプターで構成されていますが、アマチュア写真だけでなく、科学や医学、また教育の場、そして生産工場における製品検査など、幅広く使用できるのも大きな特長です。さらにマイクロ探険隊のアクセサリとして、カメラスタンドやビデオスタンドも発売されています。希望小売価格(税別) 18,000円



マイクロ探険隊で撮影 左:300mm×6 右上:300mm×12 右下:300mm×24

Kenko

テレコンバージョンレンズ

接写リングと同様に、一眼レフカメラとレンズの間にセットします。本来は焦点距離を1.5～2倍に伸ばし、標準レンズを望遠に、望遠レンズを超望遠に変えるためのレンズですが、最短撮影距離はそのままに、撮影倍率を上げるのですから、被写体に近づいたのと同じことになり、マクロ撮影が可能になります。ただし、レンズの明るさが変わらないままに倍率を上げるのですから、写真の画面は暗くなります。2倍用を使うと2絞り分暗くなります。

■マクロテレプラスII-MC7(2倍&マクロ)

通常は2倍効果のコンバージョンレンズですが、マクロ機構の操作により、1対1(50mmレンズ使用時)の等倍撮影から1対20までのマクロ撮影が連続的に行えます。
【適用機種】ニコン用、キヤノンFD用、ミノルタMD用、Kマウント用、コンタックス・ヤシカ用、オリンパスOM用
希望小売価格(税別) 各17,800円



■ケンコーAFテレプラス(1.5倍/2倍用)

35mm一眼レフのオートフォーカス機構に連動したテレコンバージョンレンズです。1.5倍用と2倍用があります。
【適用機種】キヤノンEOS用、ミノルタα-Xi用、ニコンAF用、ペンタックスZ用
希望小売価格(税別)
1.5倍AFテレプラス 各12,800円
2倍AFテレプラスMC7 各17,800円



■テレプラスMC6(2倍用)

6群6枚のレンズ構成をした、中判カメラ専用的高级機タイプです。自動絞り、TTL、AEに完全連動していますので、初めての使用にも失敗がありません。
【適用機種】ハッセルブラッド用、ペンタックス6×7用、マミヤRB67用、マミヤM645用
希望小売価格(税別) ハッセルブラッド用 56,000円、ペンタックス6×7用 70,000円、マミヤRB67用 63,000円、マミヤM645用 29,000円



■リバースアダプター

撮影レンズをカメラのボディに逆に取り付けることで、高倍率の接写を可能にするアダプターです。このリバースアダプターを使用すると、撮影レンズを簡単に逆付けすることができます。このような撮影方法をリバース撮影と言いますが、このリバース撮影に適したレンズは、広角、標準、標準系のズーム(28～105mm)などです。逆付けですから、当然のことながら、すべての操作はマニュアルになります。
【適用機種】キヤノンEOS用、ミノルタα用、ニコン用、コンタックス・ヤシカ用
希望小売価格(税別) 各3,000円



リバースアダプターをセッティングした状態

マクロ撮影を彩るアクセサリ

マクロ撮影では些細なピントのずれでも写真の仕上がりを台無しにしてしまいます。こうしたマクロ撮影のために、正確なピント合わせをサポートする様々なアクセサリが、ケンコーから販売されています。

■バリアングル110

マクロ撮影では通常撮影以上に、横位置と縦位置の角度の変化が、大きく画面の印象を変えてしまいます。バリアングルは被写体とレンズの軸を動かすことなく、カメラを半回転させて縦横の位置を変えることを可能にします。
希望小売価格(税別) 17,800円



■クローズアップスライダー-Professional

正確なピント合わせが要求されるマクロ撮影では、三脚は必需品ですが、地面近くに咲いている花を撮影する場合などでは、三脚の低アングルに限界が生じるケースがあります。また、昆虫など動く被写体をマクロ撮影する場合などは、被写体を追って動き回らなければならないので、三脚だけではカバーしきれなくなります。このスライダーは、そうした場合に三脚に装着し、カメラを安定させながら、カメラの位置を移動させることを可能にします。
希望小売価格(税別) 18,800円



マクロ写真用品特集

三脚

■カルマーニュ640

カルマーニュ640は脚材にカーボンファイバーを採用し、さらにカーボンの軽さを100%生かすために金属部品をマグネシウムにすることにより、軽くて強いという相反する要求を見事に実現しました。
希望小売価格(税別) ¥68,000(雲台別売)
雲台取り付けネジは1/4、3/8両方に対応します。



最低地上高15cmから全高152cmまでをフルにカバーする、3ステップ開脚のフルアングル4段三脚。センターポールは2分割式でローアングル時はローコラムを外します。

■ミニ-F

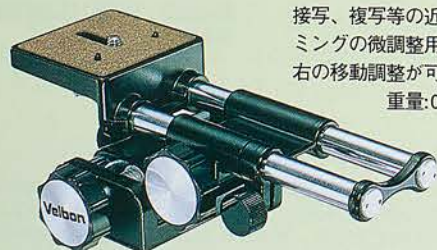
伸縮ステア機構の採用により最低地上高20cmのローアングルを実現。接写に大きな威力を発揮し、マクロ撮影の世界をより広げました。
●希望小売価格(税別) ¥10,300
雲台(PH-146MB)¥2,800、三脚¥7,500
専用ケースミニFケースDX ¥1,200(別売)



ミニ-F+マクロスライダー使用例

■マクロスライダー(微動装置)

接写、複写等の近接撮影の精密なピント合わせ、フレーミングの微調整用のアクセサリ。2Way方式で前後左右の移動調整が可能、中型カメラでも使用できる安定型。
重量:0.68kg



117(W)×192(D)×62(H)mm
ストローク:前後65mm左右26mm
希望小売価格(税別) ¥10,500

Velbon



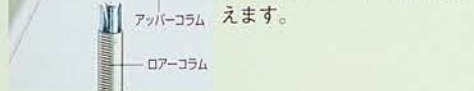
■マウンテンチェイサー

ローアングルからハイアングルまで、幅広いポジションをカバーする事を可能にしたフルアングル4段三脚。
希望小売価格(税別) ¥24,800
雲台(PH-157)¥6,400、三脚¥18,400
専用ケース#504 ¥2,900(別売)



■S.R.C方式(スプリッターラックドコラム)

ギヤエレベーターが上下2分割になり、ローコラムを取り外すことにより、ローアングルが可能となります。連結時はエレベーター昇降が行えます。



■3ステップ開脚

脚は標準開脚、セミローアングル、フルローアングルの3段階に設定が可能で、ローアングル撮影や不整地での撮影に威力を発揮します。



■スーパーアーム-7

大型三脚のために開発された水平移動アームで、ローアングルや三脚のは入らないような場所での撮影に便利です。
EVスライド:21cm パイプ径:3.2cm 全長:35cm
高さ:11cm 台座径:6.5cm 重量:1.23kg
希望小売価格(税別) ¥29,800



スーパーアーム-7使用例

三脚

■エイブル300SP

雲台は、自由に選んで自分で組み合わせるモデル。バル自由雲台にすると、レバー1ヶ所操作でカメラは全方向自由自在に動かせ、固定できます。ノークランク式エレベーターだから、上下逆づけして俯瞰撮影対応。コンパクトモデル。
縮長:440mm 全高:1,035mm
地上最低高:210mm
質量:1.6kg 段数:3段
希望小売価格(税別) ¥12,800



■グランドマスタースポーツブラック/同アクト

ゆとりをもって90~105mmマクロ(マイクロ)レンズを使うならこれ。草や枯葉の反発力に負けない自重は、一度きめたアングルポジションが変わらず、気持ちよく撮影を進められる。傾きの調整をしやすい2パンハンドル式3ウェイ雲台。溝入り丸パイプがともまわりしない。開脚角度3段階調節式。



■グランドマスタースポーツブラック

縮長:710mm
全高:1,400mm
(別売エレベーターGM使用時1,650mm)
地上最低高:330mm
質量:3.3kg
段数:3段
希望小売価格(税別) ¥37,100

■グランドマスタースポーツアクト

縮長:600mm
全高:1,300mm
(別売エレベーターGM使用時1,550mm)
地上最低高:330mm
質量:3.06kg 段数:4段
希望小売価格(税別) ¥38,800

SLIK

■エクセラスポーツ

50~60mmマクロ(マイクロ)レンズ向き、レバー式は誰でも伸縮自在。3ウェイ雲台は、傾きの調整がやすく、2本つなぎ方式のエレベーターは、カメラの上下動と回転調節を一緒にでき、仕事が速い。ローポジション可。雲台込みで1.7kg。
縮長:510mm 全高:1,345mm
地上最低高:300mm
質量:1.7kg 段数:4段
希望小売価格(税別) ¥19,600



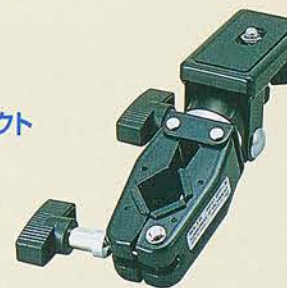
■プロフェッショナルII-アクト

中判カメラや、200mmマクロ(マイクロ)レンズまでゆとりをもって使いたい人向き。開脚角度3段階、溝不入回転パイプナット式。3ウェイ大型雲台。1度すえたら、カメラ操作で三脚ごと動く心配のない質量。
縮長:620mm 全高:1,340mm
地上最低高:360mm
質量:4.15kg 段数:4段
希望小売価格(税別) ¥65,000



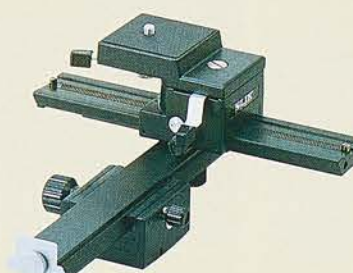
■クランプヘッド32

クランプ機能と雲台の働きを兼ねさせた便利な道具。三脚の脚やエレベーターパイプに噛ませて使えます。脚下部にセットすると、脚が開かないモデルでも、ローポジションで撮影できます。末尾の数字は、噛ませるパイプの最大直径。
縦:120mm 横:90mm
高さ:80mm 質量:400g
希望小売価格(税別) ¥8,200



■マイクロアジャスター

元祖、雲台上でカメラを前後移動させる装置。50~60mmマクロ(マイクロ)レンズ付一眼用に設計。カメラを載せるプラットフォームは360度回転可能。グランドマスタースポーツブラック、プロフェッショナルIIなど、しっかりした三脚に組み合わせてお使い下さい。
レールスライド幅:X=155mm,Y=105mm 長さ:205mm
幅:110mm 高さ:96mm 質量:880g
希望小売価格(税別) ¥29,800





ママの写真は、アートになる。
キスで撮る。

スナップからアートへ。ステップアップした、新しい<Kiss>誕生

愛するものを撮るのだから、いい写真を撮りたい。残したい。そんな気持ちに応えられる。高機能を簡単に使いこなせる。あのベストセラー*、一眼レフEOS Kissがモデルチェンジ。アートと呼べる愛情表現へ。さあ、はじめるのはあなたです。
◎小さい・軽い・簡単◎ピントの合った位置がわかる3点AF
◎夜景モードを新搭載。シーンで選べる多彩な撮影モード
メーカー希望小売価格：ボディ[シルバー/ブラックの2種] ¥59,000 (税別) EF28-80mm F3.5-5.6 IV USM付き ¥89,000 (税別)



NEW **Canon EOS Kiss**

キヤノン株式会社・キヤノン販売株式会社

*'94年1月~'96年9月までのAF一眼の中で(MRC調査)

フォトライフ四季 ふれあい広場

読者の皆様から寄せられた、お便り&お写真をご紹介します。

フォトコーナー●●●●

2才の甥の将梧です。大きな袋だったので、入れてみるとスッポリと入りました。箱入り娘ならぬ袋入り息子です。
清 律子様 香川県仲多度郡



山口県須佐湾に風光明媚なホルンフェルス断層があります。学術的にも貴重なもので、冬場の荒波にもフォトジェニックです。
広田和夫様 山口県宇部市



お便りコーナー●●●●

佐世保の天神山にタワーができました。最近のことです。きれいに立っています。その少し横に展望台ができていたのを撮りました。上から眺めれば、20万人が住む街がきれいに見えます。その写真も今度、キタムラさんに送ります。お便りコーナーに載せてもらえればうれしいです。
松本鉄磨様 長崎県佐世保市



お便り&傑作写真大募集!

このコーナーでは、皆様からの楽しいお便りや、傑作写真にコメントを添えた投稿を募集しています。掲載させていただいた方には粗品を進呈いたします。ハガキ・封書での送り先は、〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1 カメラのキタムラ「フォトライフ四季ふれあい広場」係まで。
お便りは、ファックス番号 045-476-0778でも受けつけております。また、お近くの「カメラのキタムラ」に直接お持ちいただいても結構です。読者の皆様からのたくさんのお応募をお待ちしています。(なお、応募作品の返却はいたしかねますのでご了承ください。)

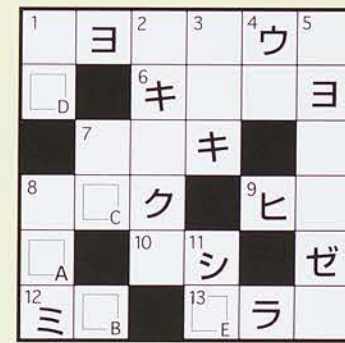
※このコーナーに多数のご応募をいただき、ありがとうございました。今回はすべてのお便り・お写真をご紹介できませんでしたがご了承ください。

編集後記

この「フォトライフ四季」夏号は、6月1日が発行日となっておりますが、皆さんはこの日がある記念日となっていることをご存じでしょうか？
実はこの6月1日こそ、昭和26年に「写真の日」と制定されているのです。その由来について調べてみると、1841年(天保12年)のこの日に、「日本で初めて写真が撮られた」とのこと。モデルは何と、幕末の薩摩藩主・島津斉彬。撮影者は上野俊之丞という島津家の御用商人だったそうです。この上野俊之丞は、オランダ船で日本に輸入されたカメラを購入して島津家に献上したそうで、その後長崎に我が国初の写真館を設立しています。時にはこうした写真の歴史などにも思いをはせてみると、私たちのフォトライフも一層楽しくなるような気がしませんか？

【お詫びと訂正】前号の「クロスワードパズル」の締め切り日が、誤って「2月28日」となっていました。応募者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びいたします。あらためて締め切り日を「6月30日」とさせていただきますので、前号をご覧の上、ご応募ください。

プレゼントが当たる!クロスワードパズル



<ヨコのカギ>

- 「フォトライフ四季」はお客様とキタムラをつなぐコミュニケーション○○○○○○。
- そんなに大きな声を出しては○○○○迷惑。
- 日本の伝統芸能のひとつです。
- 普通は手首で測ります。
- サル的一种。マント○○がよく知られています。
- 液体をこして不純物を取り除くための紙。
- 蜂が集めるもの。
- 過去、現在、○○○。

クロスワードパズル(Vol.19) 解答とご当選者 解答:「クリスマス」

<ご当選者> 田中京華(北海道)、北島由香(宮城県)、佐久間佑子(新潟県)、杉森絹恵(石川県)、吉村豊美(福井県)、山崎好一(長野県)、矢吹 貢(埼玉県)、法野清子(千葉県)、村田美加(東京都)、森本 篤(静岡県)、百木正則(三重県)、岡田敦子(大阪府)、中田正治(京都府)、清水吉巳(兵庫県)、平賀美喜義(岡山県)、京泉吾郎(広島県)、斉藤清一(鳥取県)、佐伯泰子(山口県)、岡田百合子(山口県)、森田良子(香川県)、有澤 功(高知県)、三ツ田典正(愛媛県)、明星宏典(愛媛県)、伊藤由美(福岡県)、佐多方子(長崎県)、木藤孔治(宮崎県)、赤瀬繁明(熊本県)、平野利江(沖縄県) 敬称略

答え=

○○○○○

(ヒント:海へ山へ、海外へ...)

問題:クロスワードに答えて、A~Eのマスをつなぐとある言葉になります。その答えとあなたの住所・氏名・年齢・職業をハガキに書いてご応募ください。正解者の中から抽選で30名の方に、粗品を進呈いたします。

あて先:〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1 カメラのキタムラ「フォトライフ四季クロスワードパズル」係
締め切り:8月31日(当日消印有効)

1. 夕テのカギ
2. カナツチには欠かせない海水浴のアイテム
3. 浮気?それとも...
4. 〇より育ち...などと言います。
5. 4月1日より5%になりました。
6. 昔、夏はこの中で寝たものです。
7. 北は北海道から〇〇〇は沖縄まで。
8. 頑固な〇〇や汚れは洗濯しても落ちません。



APSも、高画質。



FUJIFILM
I&I - Imaging & Information

カメラのキタムラ 四季 Vol.21 SUMMER

平成9年6月1日発行 第21号

カメラのキタムラ発行

〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1 ☎045-476-0777



FUJICOLOR
nexia



焼き増しに便利な
インデックスプリント!